

広島大学病院

Hiroshima University Hospital Medical-Dental Liaison News

ニュース

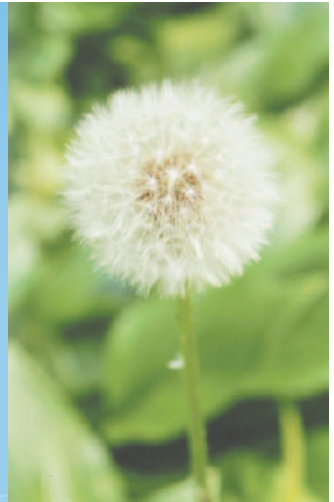
2007.5 No. **10**
増刊号



広島大学病院の理念

わたし達は、国民の健康と福祉の向上のために、次の理念を掲げています。

患者さま中心の全人的医療を行います。
優れた医療人を育成します。
新しい医療を開発します。



病院長のご紹介

広島大学病院長としての抱負



広島大学病院長 越智光夫

平成19年4月1日付けで広島大学病院長を拝命いたしました。全学の27.4%である約900人の常勤職員と650人の非常勤職員を乗組員とした広島大学病院は、厳しい医療環境の荒波の中にあります。

医療を含めた社会保障システムの危機、好転未だしの日本経済、国民の医療に対する期待感、それをあおるマスコミ報道、新医師臨床研修制度の開始等、医療環境は変化しています。その中で国は医療のあるべき姿として、1)患者の選択の尊重と情報提供 2)質の高い効率的な医療提供体制 3)地域医療の確保を含め国民の安心のための基盤作りをイメージしています。これらのことを十分認識したうえで、広島大学病院としての使命を果たして行きたいと思っています。

霞に焦点をあわせますと、まず安定した病院経営基盤の確立が必要であります。現在のところ広島大学病院におきましては、浅原前病院長を中心とした執行部と現場の方々のご尽力により、堅実な病院経営が行われているところであり、医療費削減の風圧の中引き続き、この状態を維持したいと思えます。今後も国民医療費が急速に増えるわけではなく、高齢化が進む中ますます医療費削減の風圧は強まるものと思われます。広島大学病院の理念「全人的医療」「優れた医療人の育成」「新しい医療の開発」のもと、地域に信頼される病院として、また職員にとって働き甲斐のある病院として、より忠実にしていくことを目指しております。全職員にとって働きやすい効率のよい職場環境を整備することは、院長の重要な職務と認識し、バランスの良い舵取りを行ないたいと思っています。今後広島大学病院が取り組まなければならない具体的方策は

1. 未来医療に対応可能な中央診療棟、外来棟の新築計画の推進
2. 必要な診療科の新設
3. 次期医療情報システムの更新計画の推進
4. がん治療連携拠点病院として院内外連携の強化
5. 三次被ばく医療機関としての機能整備

などであります。

次に、広島県全体に焦点をあわせてみますと、広島大学病院の役割は県下唯一の医育機関であることから広島県地域医療の全体を見渡し方向性を打ち出す必要があります。在宅介護から高度先進医療まで医師の適正配置を含め、地域の基幹病院と緊密なコミュニケーションのもと、意思決定を行ないたいと思えます。

より高いところから俯瞰してみますと、日本における広島大学病院の役割のひとつは世界に先駆ける高度先進的医療の開発による貢献であります。基礎的研究からトランスレーショナルリサーチ、これらに基く社会貢献こそが、大学病院で働く医療人の喜びであり、誇りでもあります。臨床研究部の役割を強化し、先進的医療を確実にしてゆきたいと思えます。

これらの大学病院の使命を果たすには霞キャンパス内の医歯薬学総合研究科、保健学研究科、原爆放射線医科学研究所との緊密な連携が不可欠であると考えています。霞キャンパスの皆様のご協力のもと、大胆な中にも慎重な舵取りを心がけ、日本の中でもきらりと光る大学病院にしてゆきたいと念じています。

副病院長のご紹介



広島大学病院主席副院長
鎌田 伸之

広島大学歯学部附属病院は、平成15年に医学部附属病院と組織統合し、その後平成16年4月に、法人化した広島大学の大学病院として再出発いたしました。現在は越智病院長のもとで、協力してよりよい病院を目指しています。歯科領域診療分野では、虫歯の治療や歯磨き指導から歯周病、義歯、かみ合わせ、歯並びの治療、顎関節症、インプラント治療など、また顎の骨折や口腔がんなどの入院や全身麻酔下での手術が必要な病気、さらに、再生治療など高度先進的な歯科医療・口腔保健に幅広く取り組んでいます。また、本院は、歯科医師卒後研修病院として充実した研修プログラムを準備し歯科医師の卒後臨床研修に力をいれていますが、卒前の歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士の臨床研修などを行い、将来を担う歯科医療人の育成の拠点でもあります。歯科医療・口腔保健に関する技能の向上を図り、高度先進的な歯科医療・口腔保健を提供することで患者様一人一人のお役に立ちたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



広島大学病院副院長
茶山 一彰

2007年4月から、越智新病院長の下、新たな体制で大学病院の運営に参加させて頂くことになりました。越智病院長は基本的には浅原先生が築いてこられた経営などに関する基本方針を踏襲するとおっしゃっています。大学病院の診療は今、大きな曲がり角に来ていると思います。教育、研究といった、一般病院にはない重要な機能を果たしながら、健全な経営を行って行く必要もあるわけです。大学病院がどのような症例に対して医療を提供するのか、また、地域医療において果たす役割は何かなどといった問いに対して、明確な答えはなかなか出せないと思います。しかし、確実に行わなければならないことはあります。それは、病院の理念にもある患者中心の全人医療です。自分が患者となって大学病院を受診したときに、最も求めたいのはこの点だと思います。振り返って、毎日の診療の中で、自分の姿勢はこの理念にかなったものになっているのでしょうか？私自身振り返っても、未だしといった感を抱かずにはられません。医療人に対する要求が種々高まる中で、余裕を持たなければ理念にかなった医療はできないと思いますが、十分な余裕のある人は今大学にはあまりいないでしょう。このように大学病院の運営が大変なこの時期に、越智病院長の指揮の下で、すこしでも自分の疑問にも答えられるように、また少しでも皆様のお役に立てるように頑張りたいと思います。



広島大学病院副院長
小川 哲次

4月から、教育研修担当副院長を拝命しました小川です。病院の教育研修担当として、病院の理念はもとより、越智病院長の掲げておられます高度先進医療としての再生医療の推進、女性にやさしい職場環境づくり、国際協力・貢献などの3つの目標到達を念頭に、優れた医療人の育成並びに質の高い高等教育の提供に取り組むたいと考えています。また、地域の中核病院として患者中心の医療や高等教育を担う人材の育成では、ホスピタリティーの概念を基にした接遇・コミュニケーション研修、国境を越える高等教育の質保証の概念をもとにした教職員の教育能力の国際標準化や継続的向上への取り組みを推進したいと思っています。

これまで、歯科の狭い領域の教育・研修を担当してきましたので、戸惑っております。ご支援いただけますようお願いいたします。

副病院長のご紹介



広島大学病院副院長
平川 勝洋

この度、副病院長として医療安全担当を担当することになりました。大学病院の使命のひとつとして、高度の医療を提供することがあげられますが、その根底には患者さんの安全が担保されていることが、最低限の条件であると思います。「人間はミスをするものであり、ミスをするのが人間である」ことは、誰もが認めることですが、医療の現場では、当たり前であってはならない事実でもあります。病院の執行部だけの努力で、ミスをなくすことが不可能であることも自明のことで、医療に従事する全員で取り組むべき課題です。幸い前任の関係者の努力により、次第に医療安全に関する文化が芽生え始めています。今後も、種々の医療安全に関する情報の共有、高い安全意識の保持を目標に、行動していきたいと思っております。皆様のご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



広島大学病院副院長
才野原 照子

このたび、平成19年5月1日づけで、副病院長（看護担当）をおおせつかりました。期待にお応えできるよう務めてまいりますので、ご指導ご支援のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

日本で看護職の副院長が生まれて20年、現在、115の病院に看護職の副院長が登用されています。『平成18年版看護白書』には、“職位が市民権を得ているとは言い難い”が、“組織横断的に関わることで、看護部門だけでは解決しえない問題を解決に導いてきた功績は大きい”と評価してありました。また、“看護職は24時間患者の側にいるので、患者ニーズのボトムアップに適した職種”、“全科にわたって至るところに情報網がある職種”、“最大の人数をかかえる部門なので、病院の方針の周知徹底が容易”とあります。

この春、新人看護職員を144名受け入れました。今、オリエンテーションと基礎看護技術研修の最中です。「看護師配置7対1」の整備により、医療安全の確保と手厚い看護サービスの提供をめざしています。看護部職員は補助者を含めて724名になりました。ますます大所帯になっていきます。人の確保と配置、安全性の確保、教育体制の整備、離職防止策、処遇改善、職場環境の整備、専門性の向上、チーム活動の推進、連携の強化、資源の有効活用などなど、課題は山積しています。

今年、病院は法人化後4年目に入ります。中長期的視点にたった、計画的で確実な病院運営が求められています。看護職に期待されるものを深く自覚し、私たちの職場が地域の人々にますます愛され、信頼される病院になりますよう、また職員がイキイキとしている、働きやすくて魅力的な病院となりますよう、微力ではありますが、務めてまいりたいと思っております。



広島大学病院副院長
西田 良一

この度、副病院長（管理運営担当）を拝命いたしました。越智病院長を支え、業務に精励したいと考えております。

本院は、地域の中核病院として、常に患者さんの視点に立って、地域に信頼される病院をめざしておりますが、患者サービス面では、これで良いという到達点はありません。

中でも、外来診療待ち時間の短縮要望については、午後診療拡大や、内科系、外科系診療室の共用化を図る取り組みなどを行っておりますが、他の方策を含めた検討も行います。

また、入院患者さんの食事では、管理栄養士との連携により、カロリーや栄養バランスのみに主眼を置くのではなく、食材の厳選、調理方法、盛付や彩りにも配慮し、満足いただくための工夫を行っております。

今後とも、広島大学病院が地域に信頼される患者満足度の高い病院となるよう、より一層の努力を続けますので、皆様のご支援とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

呼吸器外科

呼吸器外科では、原発性肺がん、転移性肺がんを中心に、肺良性疾患、縦隔・胸壁腫瘍、重症筋無力症など、呼吸器外科領域のほぼすべての疾患を対象に診療を行っています。従来手術に加え、1992年よりは患者様により低侵襲で負担の少ない胸腔鏡手術を導入し、昨年度までに500例以上行っています。現在では呼吸器外科手術の約7割が内視鏡を用いた胸腔鏡手術になっています。対象疾患は気胸などの良性肺疾患や転移性肺がんだけでなく、原発性肺がんに対しても胸腔鏡手術の適応を拡大し、現在は臨床病期I期に対しては標準手術として肺葉切除、リンパ節郭清を行っています。更に、従来胸骨を大きく縦切開して行っていた重症筋無力症を含む縦隔疾患に対しても胸腔鏡下に摘出術を行っているのも特徴です。今回は肺がん手術を取り上げてみます。

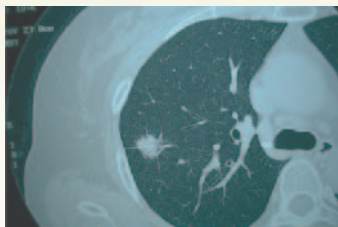


肺がんとは

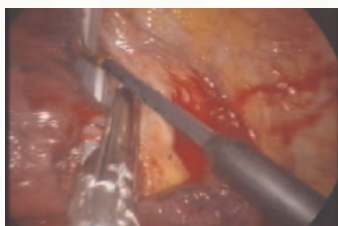
肺がんは日本でも年々増加傾向にあり、がんによる死亡率の男性で1位、女性でも2位となっています。肺がんの多くを占める非小細胞がんは手術が治療の中心となり、早期であれば約8割の人が手術で治ります。しかし肺がん早期に咳、痰、胸痛などの症状がでるのは比較的まれで、症状が出たときには手術で取りきれないケースがほとんどです。定期的な検診などで早期発見することが重要といえます。

肺は右が3つ、左が2つの袋（肺葉）に分かれており、肺がんの手術はがんのある肺葉を切除し、周囲のリンパ節を郭清するのが標準術式となっています。この手術を行う際、従来は肋骨の間を大きく切って広げる開胸術が一般的でした。しかし広島大学病院では患者さんの負担が少ない胸腔鏡手術を肺がんに対しても行っています。胸に小さな穴を開け、内視鏡の一種である胸腔鏡を通してモニターに映る画像をたよりに、手を入れずに肺葉切除、リンパ節郭清を行います。高度な技術を要しますが、傷が小さく術後の回復が早いのが特徴です。術後生存期間も従来の開胸術と全く遜色の無い成績が得られています。また早期の肺がんであれば、肺葉全部を取らず、肺の切除量を小さくする区域切除も可能で、術後の呼吸機能の障害が少なく済みます。

呼吸器外科では、毎週月曜日午後7時より呼吸器内科、放射線科、病理学と合同で肺がんなどの手術症例を中心に呼吸器カンファレンスを開催し、個々の症例について様々な角度から意見を交換し、診療の質の向上に努めています。



肺がんの胸部CT写真：
右肺上葉に2cm程度の
肺腺がんを認める。



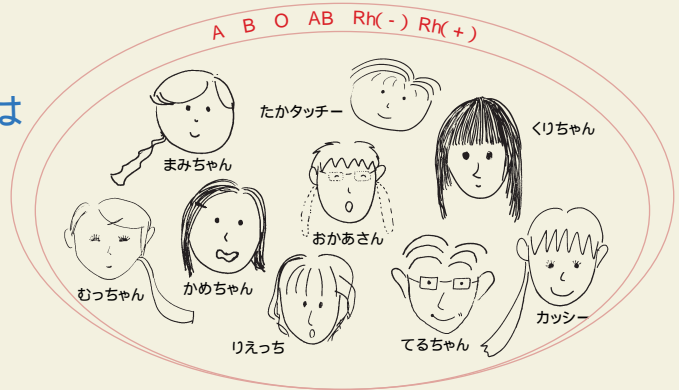
胸腔鏡手術の術中写真：
手を入れずに、胸に空けた
小さな穴から道具を挿入し、
モニターを見ながら血管の
処理を行う。



手術創の比較：
従来の開胸術に比べて胸腔鏡手術の方が
より小さな傷で回復も早い。

輸血部のご紹介

輸血部のスタッフは、患者様と直接に接する機会はほとんどありませんが、陰で皆様の治療をお手伝いしています。

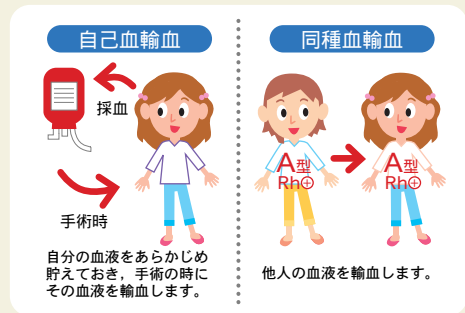


輸血とは

血液は酸素や栄養の運搬、止血作用、病原体の防御作用などの役割を果たしていますが、病気で血液ができなくなったり、ケガで出血した場合には生命を維持することが難しくなります。また、治療で血液を造らなくなる場合や手術などで出血する場合があります、このような場合には輸血によって治療します。

輸血には

輸血には同種輸血と自己輸血の2種類の方法があり、治療状況によって最適な輸血方法を選択します。同種輸血とは、同じ血液型の方から採取した血液を輸血することをいいます。一方、自己輸血とは、手術などで予め出血が予想される場合に自分の血液を貯め置いて、出血の際にその血液を使う（自分に戻す）方法です。



自己血採血現場を見せていただきました!



採血の前に、今一度、患者様にお名前を確認していただきます。



採血場所を部位を念入りに消毒します



しっかり消毒できたら、いよいよ採血に

自己血採血の際に、わからないことや輸血に対する不安がありましたら、ご遠慮なくご質問してください。

輸血に対するご質問は輸血部 **082-257-5582**まで。



広島大学病院のホームページのご紹介

分かりやすく見やすいページづくりを心がけていこうと思いますので、引き続きご愛顧のほど、よろしくお願ひいたします。

ご意見やご感想を下記へお願いいたします。

広島大学病院 広報委員会（秘書室広報担当）

〒734-8551 広島市南区霞一丁目2番3号 Tel 082-257-5555 Fax 082-257-5074

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/>

